長生村　立地適正化計画策定に係る住民アンケート実施結果

１．調査概要

調　査　対　象：長生村全域の 18 歳以上の住民
八積、一松、高根　各 400 票（男女各 200 票）　計 1,200 票（無作為抽出）
調査実施時期：令和 4 年 10 月 14 日（金）～10 月 31 日（月）（回答期間 2 週間）
調　査　内　容：

回答者属性	○性別、年齢、居住地(町丁名)、職業、家族構成、自家用車利用状況 ○居住形態、居住年数、居住継続意向とその理由
身近な施設の利用状況	○よく使う生活サービス施設の場所、移動手段、移動利便性の満足度
通勤・通学状況と公共交通に関する意向	○通勤・通学先と移動手段、移動手段の満足度 ○公共交通機関に関する意向とその理由
これからのまちづくり(コンパクトなまちづくり)	○人口減少や少子高齢化に係る影響で困ること ○これからのまちづくりで重視すべきこと ○これからのまちづくりに関するご意見・ご提案（自由意見）

回　　収　　数：４１７票（回収率 34.8%）

２．アンケート結果のまとめ

【回答者属性】（１～５P、38P）

○回答者は女性がやや多く(約 51%)、年代では、60 歳代が最多(約 26%)で、60 歳以上が 4 割強(約 46%)を占める。30 歳代～50 歳代では、女性がやや多い(6 割弱)傾向にある。

○居住地は、一松地区と高根地区が同数で、八積地区がやや少ない。60 歳代以上の回答者は一松地区が多い傾向にある。

○職業は、会社員、公務員が最多(約 35%)で、パート、アルバイト及び無職が続いている。

○家族構成は 2 世代家族が 4 割強(約 43%)を占め、次いで夫婦(約 34%)となっている。

○回答者の 8 割弱(約 78%)が自分で自由に使える自動車を保有し、家族共用の自動車の保有と併せると、9 割強(約 92%)が自動車を保有している結果となった。

○居住形態は、回答者の 9 割強(約 95%)が持ち家・一戸建てであった。

○9 割弱(約 89%)が「長生村に引っ越してきて 10 年以上」または「長生村で生まれた」と回答。

○8 割(約 82%)が、「長生村にずっと住み続けたい」または「当分の間住み続けるつもり」と回答。
「いずれは村内で転居または村外に転出するつもり」または「すぐにでも村内で転居または村外に転出したい」と回答した方の移り住みたい場所は、千葉市や神奈川県がやや多かった。
また理由としては、「通勤・通学が不便」が最多(約 33%)で、続いて「買い物など日常生活が不便」であった(約 19%)。

【身近な施設の利用状況】（6～12P）

○食料品等の買い物に最もよく利用する施設は、タイヨービッグハウス茂原店が最多(約 32%)で、以下ナリタヤ茂原店、ベイシア長生店、せんどう一宮店までで 8 割(約 81%)を占める。移動手段は自家用車・バイクが 9 割強(約 92%)を占める。このため、アクセスの利便性に関しても、「満足」または「やや満足」が 8 割弱(約 75%)を占める。逆に、「やや不満」または「不満」と回答された方は、「自宅から目的地までの距離が遠い」が最多(約 79%)であった。

○衣料品等の買い物に最もよく利用する施設は、カインズ茂原店が 2 割強(約 24%)で最多であったが、以下、茂原市内・村内の家電量販店やチェーンストア等に分散する結果であった。移動手段は自家用車・バイクが 9 割強(約 94%)を占めた。アクセスの利便性に関して、「満足」または「やや満足」は 6 割強（約 63%）で、「やや不満」または「不満」と回答された方は、「自宅から目的地までの距離が遠い」が最多(約 91%)で、食料品等の買い物よりも不便に感じている方が多い結果となった。

○かかりつけの病院や診療所は、長生診療所が最多(約 27%)であるが、以下、村内の施設が 6 割(約 60%)で、村外の施設が 4 割 (約 40%)であった。移動手段は、自家用車・バイクが 9 割(約 89%)を占めた。アクセスの利便性に関して、「満足」または「やや満足」は 8 割弱(約 76%)で、「やや不満」または「不満」と回答された方は、「自宅から目的地までの距離が遠い」が最多(約 83%)であった。

○こども園・保育園・幼稚園等に関しては、一松こども園・八積こども園・高根こども園が大半（約 89%）を占め、以外が茂原市内の幼稚園等であった。移動手段は、自家用車・バイクが 9 割強(約 93%)であり、大半がアクセスの利便性に関して、「満足」または「やや満足」と回答している。少数の「やや不満」と回答した方は全て「自宅から目的地までの距離が遠い」を挙げている。

【通勤・通学について】（13～14P）

○通勤・通学先は、茂原市が最多(約 30%)で、次いで千葉市(約 14%)、長生村(約 13%)となっている。移動手段としては、自家用車・バイクが最多で 8 割弱(約 78%)を占める。アクセスの利便性に関しては、「満足」または「やや満足」が 7 割(約 70%)を占める。「やや不満」または「不満」と回答された方の理由としては、「自宅から目的地までの距離が遠い」が最多(約 61%)。そのほか、自由意見として、最寄り駅まで遠い、電車の本数が少ないことが理由として挙げられていた。

【公共交通について】（15P）

○公共交通機関に関しては、「困っていない」または「あまり困っていない」で 7 割強(約 75%)を占める。「やや困っている」または「困っている方」が望む公共交通施策は、「村内の循環バス」が最多(約 39%)で、次いで路線バスの拡充(約 32%)となっている。そのほか自由回答では、電車の本数、快速の停車等に関する意見が挙げられていた。

【これからのまちづくりについて】（16～17P、39～44P）

○人口減少や少子高齢化で困ることは、「利用者の減少により、コンビニ・スーパーなどの店舗が撤退する」が最多(約 17%)であるが、次いで「人口が減少するため、1 人あたりの税負担が増加する」(約 16%)、「高齢化の進行により、医療費などの社会保障費が増加する」(約 15%)で拮抗している。この傾向は居住地別にみると、一松地区及び高根地区で強く、八積地区では、「高齢化の進行により、医療費などの社会保障費が増加する」が最多で、次いで「空き地や空家が増加し、防犯・防災上の問題発生や景観の悪化につながる」であった。また、高根地区では、「鉄道やバスの運行本数が減る、路線がなくなる」及び「道路や上下水道などの生活インフラが維持・更新できなくなる」が他地区より多い傾向にあった。年代別の意向では、60 歳代で、「空き地や空家が増加し、防犯・防災上の問題発生や景観の悪化につながる」、「道路や上下水道などの生活インフラが維持・更新できなくなる」及び「地震・津波、洪水などの災害発生時に避難所等に逃げられなくなる」が他年代に比べ突出している傾向にあった。

○長生村の今後のまちづくりについて重視していくべきことは、「日常の生活に必要な買い物環境・サービス機能の確保」が最多(約 22%)で、次いで、「道路や下水道などの生活インフラの維持」(約 11%)、「空き地や空家などの有効活用」(約 10%)となっている。また、自由回答としては、移住対策、子育て支援の充実に対する意見が散見された。この傾向は居住地別にみると、一松地区及び高根地区で強く、八積地区では、「日常の生活に必要な買い物環境・サービス機能の確保」や「空き地や空家などの有効活用」よりも、「効果的で効率的な行財政運営」や「道路や上下水道などの生活インフラの維持」が多い傾向にあった。年代別の意向では、60 歳代で、「効果的で効率的な行財政運営」や「隣近所、地域の見守りや支え合い」が多い傾向にあった。

【自由意見】（16～37P）

■これからのまちづくり

○人口減少・少子高齢化、地域活性化に関する多数の意見・提案が寄せられた。特に、回答者の年齢や職業を問わず、子育て支援や移住施策に関する意見・提案が寄せられた。また、空家を活用した移住者施策の強化等に関して、具体的な提案も複数見受けられた。

○長生村は隣接市町と比べてブランド PR が弱いとの意見も散見され、田畑（農業）、アイガモ農法、海などの地域資源の活用に加え、「ながいき」をキーワードとしたブランディグに関する意見も複数見受けられた。

○公共施設・インフラ整備に関しては、道路の拡幅、街灯の設置、歩道整備に関する要望が散見された。公共施設関連では、小中(高)一貫校の整備など、やや教育施設や子育て施設に関する意見が多かった。

○公共交通や移動手段に関しては、運転免許返納後の移動手段を懸念する声も多数見受けられ、巡回バス・コミュニティバスの運行や路線バスの拡充などの要望が散見された。また、学生等若い世代からも、通学時間帯の八積駅発着のバスの運行を望む意見が挙げられた。さらに、親世代にとって子どもの送迎は負担との意見も見受けられた。

○JR 外房線のダイヤ（運行本数・快速停車）や八積駅の改良（跨線橋・駅舎・窓口サービス）に関しても要望が散見された。

○村内への商業施設等生活サービス施設の拡充に関する意見も散見され、特に八積駅前の利便性向上やにぎわい創出のため、施設の拡充を望む意見が多数見受けられた。

■身近な地区でのまちづくりについて

○公園の設置、公園施設の拡充に関する意見が散見された。子ども用の公園のほか、高齢者が気軽に運動できる公園の要望も見受けられた。

○医療施設、スーパー・コンビニの充実を望む意見が多数であった。また、移動スーパーの拡充に関する意見も散見された。

○「これからのまちづくり」同様、街灯整備に関する要望が多数見られ、次いで、道路拡幅などの整備が見受けられた。

○公共施設整備に関してはこれ以上の投資は不要との意見もあった。

○ボランティアの講師等を活用した習い事や趣味の活動の拡充により、子育て世代や高齢者のコミュニティを活性化させるとの提案もあった。

【まとめ】

○回答者 9 割強(約 92%)が自動車を保有している（「自分で自由に使える自動車を保有」または「家族供用の自動車を保有」）ことから、身近な生活サービス施設への移動手段は大半が自家用車・バイクであり、アクセスの利便性に関しても「やや不満」または「不満」と回答された方はごく少数であった。また、通勤・通学に関しても同様の状況であった。

○公共交通機関に関しても、年齢を問わず、「困っていない」または「あまり困っていない」で 7 割強(約 75%)を占めている。これからのまちづくりに関する自由回答等で、自動車免許返納後の移動手段を心配する意見が散見されること、親世代の子どもの送迎が負担となっていること、駅までの交通手段が不便である、街灯の少なさから送迎せざるを得ないとの意見もあることから、今後は、交通弱者等に対する代替手段の確保を検討する必要があると考えられる。

○インフラ整備に関しては、安全上及び移動環境の観点から道路の街灯整備・拡幅整備・歩道整備を望む意見が散見された。道路環境が整備されれば歩きたい、公共交通機関を利用するとの意見も見受けられることから、立地適正化計画においても考慮していく必要があると考える。

○公共施設に関しては、新設等の投資は不要との意見が見受けられるとともに、既存のストックを活用し、子育て世代や高齢者の交流を図るべきとの意見も複数あった。

○今後のまちづくりにおいて重視すべきことの第 1 位に「日常生活に必要な身近な買い物環境・サービス機能の確保」が挙げられていた。自由回答においても、利用者減少によりコンビニ・スーパーなどの店舗が撤退することを懸念する意見が多数あり、また村内にコンビニ・スーパーを望む意見も散見された。また、八積駅周辺に商業施設等を望む意見も多数あった。加えて、医療施設の充実を望む意見も多数あった。都市機能誘導施策の検討等に参照していく必要があると考える。

○回答者の年齢を問わず、人口減少・少子高齢化対策に関するアイデアが多数挙げられていた。長生村の地域資源や「ながいき」をキーワードとした施策やブランド PR により移住や転入を促進すべきとの意見や、子育て支援施策の充実により移住や転入の促進及び少子高齢化対策に繋げていくべきとの意見が散見された。空き地・空家及び遊休地等の既存ストックの活用な

ど、中には具体的な提案も複数あった。関係各課に意見を共有のうえ、居住誘導施策の検討の際に参照していくべきと考える。

○一方で、今後のまちづくりにおいて重視していくことに、地震・津波、洪水などの災害に強い生活環境づくりを挙げている回答者は他選択肢より少なく、自由回答においても、築山公園に関する意見が少数のみとなっていた。

以　上